

意見募集結果について

1 募集期間 令和5年11月20日（月）から12月3日（日）まで

2 閲覧方法

- (1) 市ホームページに掲載（本編・概要版）
- (2) 市施設等に配架（本編・概要版）

本庁舎、教育プラザ、各支所及び日立駅前出張所、各図書館、各交流センター、茨城県県北生涯学習センター、池の川さくらアリーナ

3 提出方法

- (1) Webフォーム
- (2) Eメール、郵送、FAX、閲覧場所にある回収ボックスに投函

4 件数

種 別	Webフォーム	回収ボックス	Eメール	郵 送	合 計
件数(人数)	34 件(19 人)	47 件(32 人)	12 件(4 人)	—	93 件(55 人)

5 内容 （学校教育No.1～56、生涯学習No.57～71、スポーツNo.72～93）

No.	意見の概要	回 答
1	現在の計画の成果や課題の要点を記載してはどうか。	現計画の現状や成果については、P7～9に記載しております。 また、現状や課題については、施策の6つの柱ごとに現状と課題を記載しております。
2	社会状況・経済状況に応じた取組を追加していただけたらと感じた。	本計画の策定に当たっては、教育を取り巻く社会情勢等に応じて、「ひたちらしき」、「デジタル化」、「誰一人取り残さない教育（SDGsの方向性との合致）」、「支え合い」の4つの視点を持って策定してまいります。
3	P12 視点1 のひたちらしきについて、「ひたちらしき」という言葉で第一に思いつくのは、豊かな自然である。子どもたちの情操教育のためにも、是非ともこの豊かな自然をいかした取組に期待したい。	総合的な学習の時間などで、地域の自然に触れること、環境について学ぶことで、子どもたちの情操教育に役立ててまいります。

No.	意見の概要	回 答
4	<p>色々な施策が計画されているのはよいが、総花的に見え、何が日立市の教育の特色なのか、何に力を入れるのかが、伝わってこない。</p>	<p>本計画の策定に当たっては、教育を取り巻く社会情勢等を踏まえ「ひたちらしさ」、「デジタル化」、「誰一人取り残さない教育（SDGsの方向性との合致）」、「支え合い」の4つの視点を持って策定してまいります。</p>
5	<p>P12～15 計画の視点について、記載されている内容がこれまでやってきたことの強化なのか、新たな対応なのかが分かるかといふ。</p>	<p>構成編集の調整により、当該頁の記載内容を修正します。</p>
6	<p>P14の視点3 「誰一人取り残さない教育」はとてもよい。性別、貧富の差、国籍に関わらず、平等な教育を期待したい。</p>	<p>頂いた御意見を踏まえながら、教育施策を推進してまいります。</p>
7	<p>P14 視点3の誰一人取り残さない教育として、大人が子どもたちを支援する施策が記載されているが、子どもたちの将来を見据えて、悩みや不安があるときに誰かと相談して解決できるようなコミュニケーション能力を育てることも必要だと思う。</p>	<p>悩みや不安があるときに誰かと相談して解決できるようなコミュニケーション能力を育てるため、「道徳教育の推進（P34）」により、児童生徒が自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるために、「考え、議論する道徳」に取り組んでまいります。</p>
8	<p>P17 施策の体系でこれからの取組の全体像が見えるが、どうなればゴールになるのかが分かった方がよいのではないか。</p>	<p>施策の体系の主な取組1～69ごとに、今後の施策の進め方を示すための「方向性」を示しており、今後5年間は、この方向性を踏まえて各取組を推進していきます。</p>
9	<p>P23の目標指標が、（授業の内容がよくわかる割合という）子ども達の自己評価になっている。子ども達に確かな学力が身につけているのか正確に把握するため、知能検査や県学力診断テストの結果を目標指標とすべきと考える。</p>	<p>テストの点数を指標にした場合、その年のテストの難易度に影響を受け、年度間で子どもたちの学力が向上したと言えるのか判断が難しいため、子どもたちの授業の理解度を指標とすることが適切と考えました。</p>

No.	意見の概要	回 答
10	<p>素案の施策を進めるには優秀な人材が必要である。</p> <p>日立市独自採用の優秀な教員（専門性をもつ幅広い人材）を確保したり、教員向けの特色ある研修体制を提示することで、保護者の期待と安心感も高まり、「教育は日立市で」をアピールできると考える。</p>	<p>「教職員研修の充実（P25）」などによる職層や経験に応じた研修の実施のほか、「N I Eの推進(P25)」、「I C T活用教育の推進（P57）」などで実施されている本市の特色ある研修の充実を図ります。</p> <p>また、日立市独自に教員を採用することについては、他自治体の事例を調査し、検討を進めてまいります。</p>
11	<p>「教職員研修の充実（P25）」について、ひたらしきやデジタル化にどうつながるのか具体的に示してはいかがか。</p>	<p>御意見の趣旨を踏まえ、「ひたらしき」「デジタル化」とのつながりについて追記します。</p>
12	<p>「総合的な学習の時間の実践支援（P29）」について、環境問題についての学習をより全面に出してはいかがか。環境問題は、世界的な気候変動で重要性が増しているだけではなく、環境教育関連の事業は、様々な補助金があり、県内全域に渡って無償で派遣可能な専門家がいるため、学校と行政が協力して事業を進めることに適していると思う。</p>	<p>「総合的な学習の時間の実践支援（P29）」では、本市の歴史、文化などのほか、環境問題についても子どもたちが学ぶ機会となっております。</p> <p>また、環境問題に限らず、様々なテーマを学習する際に、子どもたちがより関心を持って取り組めるように、地域の専門的な知識を持った方から話を聞く取組を検討します。</p>
13	<p>「郷土教育の推進」について、郷土を感じられる施設を訪れて、郷土愛を育むのも大切だと思うが、日立市の豊かな自然を通じて郷土愛を育む取組があってもよいのかと思う。</p>	<p>本市の特色ある施設や豊かな自然を通じて郷土愛を育むため、「郷土教育の推進(P38)」や「総合的な学習の時間の実践支援（P29）」に引き続き取り組みます。</p>
14	<p>「子ども読書活動の推進（P31）」について、子どもが学校や家庭で本を読んで、授業が始まる前に5分程度毎日輪番制で感想を述べるなどに取り組んではどうか。知識の定着が図られると思う。</p>	<p>頂いた御意見を踏まえながら、子どもたちが読書で得た知識をどのようにして定着させていくか、研究・検討してまいります。</p>

No.	意見の概要	回 答
15	<p>多様化する社会で生き抜くためには、「健やかな心」の育みも不可欠ではないか。</p>	<p>学校の教育活動を通して健やかな心の育成に努めてまいります。具体的には、「未来パスポートの活用（P34）」、「道徳教育の推進（P34）」などの取組により、子どもたちの自己肯定感・自己有用感の醸成と、児童生徒が自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きる力の育みに努めてまいります。</p>
16	<p>「職業探検少年団への支援（P35）」について、日立市はキャリア教育の一環として様々な職業の少年団を対象としており素晴らしい。「ものづくりのまち日立」の火はまだ消えていないと思うので、学校教育期に日立の「ものづくり」の魅力にも気が付ける機会があってもよいのではないかと。</p>	<p>職業探検少年団の中には、「ひたちものづくり探検少年団」があり、身近な「ものづくり」の職業体験活動を行っています。引き続き、活動の中で「ものづくり」の魅力に気が付けるような機会の提供に努めます。</p> <p>また、郷土博物館等の施設見学を通して、児童の郷土への関心を高めるなど、郷土学習の推進に努めます。</p>
17	<p>「郷土教育の推進」について、日鉱記念館、オリジンパークなどの日立市の産業遺産などを活用した教育は、日立市においては、必須と考える。近代日立市が立ち上がり、歩んだ歴史のなかで、煙害を克服するための桜を活用した取組、大煙突の建設、巨大メーカーの起業などの歴史への学びは郷土愛の育みにつながると考えられる。</p>	<p>「郷土教育の推進（P38）」に引き続き取り組み、鉱工業を中心に発展してきた本市の歩みや、戦災とその復興を中心とする歴史に対する子どもたちの理解を深め、郷土を誇りに思う気持ちを育ててまいります。</p>
18	<p>日立で学んだ子どもたちが、大人になって日立市にどう貢献してもらいたいのか。そのような視点も必要だと思う。</p>	<p>本計画においては、「ひたちらしき」など4つの視点を設けたことが特徴となっておりますが、郷土への貢献という点につきましては、施策の方向性「郷土を愛し、広く社会に貢献する子どもの育成（P38～40）」などでの取組を通して、様々な場所で活躍していくための素地を育ててまいります。</p>

No.	意見の概要	回 答
19	<p>年々増加している配慮を要する児童生徒の離席・授業離脱等に対応し、その子どもと他の子どもたちの学びの保障のためにも「生活指導員」の人材の確保・配置を是非お願いしたい。</p>	<p>子ども一人一人の状況に応じた支援を図るため、生活指導員の増員に取り組み、安心して授業を受けられるように、子どもたちの学びの保障に努めます。</p>
20	<p>「生活指導員によるきめ細やかな支援（73人→80人に増員）」について、生活指導員を増やすのではなく、近隣の市町村のように市費職員として「教諭」を採用して、児童生徒の支援に力を注いだ方がいい。</p>	<p>特別な支援を必要とする児童生徒に対して、学校生活の支援を行うため、「生活指導員によるきめ細やかな支援（P46）」により、児童生徒一人一人の状況に応じた支援を図ってまいります。</p> <p>また、市職員として「教諭」を採用することについては、他自治体の事例を調査し、検討を進めてまいります。</p>
21	<p>P46 No.29、P52 No.35について、一度面談した時に、メールで長期的なサポートをやり取りできるようなシステムはあるのか。気軽に相談できる体制が整っていると、いざという時にとても役立つのではないかと思う。</p>	<p>一度面談した後も、繰り返し気軽に面談できる相談体制が整うよう努めてまいります。</p> <p>また、メール等オンラインによる相談システムについては、研究・検討してまいります。</p>
22	<p>「いじめ防止への取組（P49）」について、相談だけではなく、原因究明や調査についても外部の第三者に委託できるようにする等、関わる教職員の負担を更に軽減する方向性があるのもよいと思う。</p>	<p>日立市いじめ調査委員会や日立市いじめ問題対策連絡協議会で原因究明や調査しながら、いじめ防止対策に取り組むことで、児童生徒や教職員が安心して学校で過ごせるように努めます。</p> <p>また、第三者機関への委託については、研究してまいります。</p>
23	<p>「いじめ防止への取組（P49）」について、いじめが顕在化した後の取組しかないように思えるので、発生防止の取組を行っているのであれば、その取組も記載したほうがよいのではないか。</p>	<p>御意見の趣旨を踏まえ、いじめの未然防止・早期解決を図るための取組内容を追記します。</p>

No.	意見の概要	回 答
24	<p>「いじめ防止への取組」について、できるだけイジメを無くして、子どもたちが楽しく学校生活を送れる取組をお願いしたい。</p>	<p>御意見の趣旨を踏まえ、いじめの未然防止・早期解決を図るための取組内容を追記するとともに、「いじめ防止対策への取組（P49）」や「学校満足度調査の活用による安定した学級づくり（P50）」に引き続き取り組みます。</p>
25	<p>P49 施策の方向性3「いじめと不登校対策の推進」について、社会的な問題及び教職員の負担が増えている問題の一つとして、市民がきちんと認識するために、いじめと不登校の件数を掲載すべきである。さらに、その件数を減らすことを目標指標として掲載すべきと考える。</p>	<p>国・県が公表している「児童生徒の問題行動・不登校等指導上の諸課題に関する調査」を参考にさせていただきたく存じます。</p>
26	<p>P49 施策の方向性3 「いじめ・不登校対策の推進」について、不登校の子どもが居られる場所をつくってほしい。また、不登校にならず、安全・安心を感じられ、行きたくなる学校づくりをしてほしい。先生の職場でなく、子どもたちのための学校にしてほしい。全ての子どもたちが教育を受けられる場をつくっていただきたい。</p>	<p>いじめの未然防止・早期解決を図るため、「いじめ防止への取組（P49）」や「学校満足度調査の活用による安定した学級づくり（P50）」に引き続き取り組みます。</p> <p>また、「悩みや不安がある子どもの教育相談・社会的自立支援（P51）」の不登校の子どもをサポートする適応指導教室「ちゃれんじくらぶ」などにより、悩みや不安がある子どもの支援をし、「誰一人取り残さない教育」に努めます。</p>
27	<p>P52 教職員の業務改善についてこの素案に記載の事業が、多かれ少なかれ教職員の業務増につながっていく。業務改善を本気で考えるならば、69ある主な取組を50以下に減らした方がよい。</p>	<p>本計画には、児童生徒や教職員を支援するための取組を掲載しておりますが、頂いた御意見を踏まえ、本計画の取組が教職員の業務増とならないよう努めます。</p> <p>また、御意見の趣旨を踏まえ、目的を達成した取組の終了や取組の統合など、今後推進していく中で整理してまいります。</p>
28	<p>「悩みや不安がある子どもの教育相談・社会的自立支援（P51）」の中で、「不登校・発達障害の早期解決」という部分が気になる。本人たちが困ってなければ放置してもよいのではないか。</p>	<p>児童生徒、保護者、教職員が、不登校や発達障害に係る様々な不安を抱えていたり、個人を取り巻く事情も個別に異なったりしています。ケースに応じたきめ細やかな相談活動に努めます。</p>

No.	意見の概要	回答
29	<p>今は教員の成り手が不足していると聞いている。働き方改革を推進して、教員が働きやすい環境を提供していただきたい。</p>	<p>「教職員の業務改善（P52）」や「部活動の段階的な地域移行（P52）」により、教員が働きやすい環境の整備に努めます。</p>
30	<p>P52 「部活動の段階的な地域移行」は、よい先行例をもとに、進めていただきたい。</p> <p>現状、教職員が受け皿探しをしており、働き方改革につながっていないと感じる。</p>	<p>将来にわたりスポーツ等に継続して親しむことができる機会を確保し、また、教職員が子どもたちに向き合う時間を確保するため、「部活動の段階的な地域移行（P52）」に引き続き取り組みます。</p> <p>また、部活動の地域移行の過程で、教職員の負担が増えることのないよう努めます。</p>
31	<p>教員の負担軽減のため、業務をより細分化（授業のみにする、生徒指導等の問題は外部機関に任せる等）したり、学校に関わる人（教員やカウンセラー、スクールロイヤー等の専門家）を増やし、教員の負担を分散させていただきたい。</p> <p>そのようにすることで、教員が余裕をもって自分を大切にすることができ、そこから溢れるエネルギーで子ども達や地域に還元できるようになると感じている。</p>	<p>教職員の負担軽減のため、「教職員の業務改善（P52）」や「学校事務員等の配置による教育環境の充実（P53）」などにより、業務内容の見直しや授業以外の業務のサポートに取り組みます。</p>
32	<p>No.36、38、39 部活動サポート、指導員について、ブロックにより偏りがあるように思えるので、各ブロック、各部活における指導員配置の現状が分かるページを設けてもいいのではないかと。</p>	<p>「部活動の段階的な地域移行（P52）」については、日立市を3ブロック（北部ブロック・中部ブロック・南部ブロック）に分け、1ブロックごとに1種目当たり1団体を目安に部活動の地域移行を推進していくこととしています。</p> <p>現状は、一部地域で地域のスポーツクラブに休日の部活動を担っていただく実証的事業を実施しています。</p> <p>各ブロックでどのような部活動を地域に移行しているのかの現状については、市ホームページに掲載することを検討してまいります。</p>

No.	意見の概要	回 答
33	<p>P52 No.36 部活動の段階的な地域移行について、本市の具体的な移行内容を明確にし、地域における人材バンクの設置を市報やポスターで伝えることが必要ではないか。</p>	<p>「部活動の段階的な地域移行（P52）」については、日立市を3ブロック（北部ブロック・中部ブロック・南部ブロック）に分け、1ブロックごとに1種目当たり1団体を目安に部活動の地域移行を推進していくこととしています。現状は、一部地域で地域のスポーツクラブに休日の部活動を担っていただく実証的事業を実施しています。</p> <p>また、休日の部活動の地域移行のスケジュールや、「茨城県地域クラブ活動人材バンク」の情報を本市ホームページに掲載することを検討してまいります。</p>
34	<p>日立市には多くの専門家が住んでいるので、もっと企業の協力を得て、ものづくりの楽しさや会社経営についての話（職場体験の前に）など、人材を活用することができるかとよいと思う。</p>	<p>職場体験の取組については、「中学生の職場体験活動の推進（P56）」で実施しています。</p> <p>また、職場体験の前に企業の方から話を聞く機会を設けることについて、検討してまいります。</p>
35	<p>デジタル教育の指導について、十分な訓練を受けていない教員が子どもたちに十分な教育をすることは難しいと思うので、デジタルリテラシーを高める必要があるのではないか。</p>	<p>「ICT活用教育の推進（P57）」、「ICT支援員の配置による指導力の向上（P58）」により、教職員のICTスキルの向上を図ってまいります。</p> <p>また、ネット社会において、情報を自分の目的に適合できるように使用するために、情報収集力や情報活用能力などのデジタルリテラシーの向上に努めます。</p>
36	<p>「模擬留学による語学研修」、「ICT活用教育の推進」について、子どものうちから継続的に社会に出て役立つ語学やデジタルの研修を充実させることで、将来必ず役に立つと思う。</p>	<p>国際社会やデジタル社会で生きていくための素地を育むため、「模擬留学による語学研修（P59）」、「ICT活用教育の推進（P57）」などに引き続き取り組みます。</p>

No.	意見の概要	回 答
37	<p>P13 デジタル化について、デジタル教科書の活用の推進は、時代に合った手法だと思うので、どんどん進めていただきたい。</p>	<p>「デジタル教科書活用の推進（P58）」により、デジタル教科書と親和性の高い電子黒板と合わせて活用することで、効果的で魅力ある授業づくりを推進してまいります。</p> <p>また、当面は、デジタル教科書と紙の教科書と併用し、デジタル教科書の効果の検証を段階的に行ってまいります。</p>
38	<p>「国際理解教育の推進（P59）」について、この取組は、比較的、英語の成績が優秀な子どもたちを対象としていると思うが、優秀でない子どもたちのためのボトムアップの取組もあってよいのではないか。</p>	<p>「外国語指導助手活用による英語力の育成（P59）」により、児童生徒が外国語指導助手（ALT）との生きた英語でのやり取りを経験することで、英語でのコミュニケーション能力の向上や国際教育の充実を図ってまいります。</p> <p>また、「豊かな体験の支援（P36）」のひたちっ子わくわくイングリッシュ（英語体験活動）の参加機会の拡大により、より多くの子どもが英語体験に参加できるように努めます。</p>
39	<p>子どもたちにとって、学校が安心して安全に過ごせる場所であることを最優先に考え、学習環境の整備が図られることを期待したい。</p>	<p>子どもたちが安心・安全に学校生活を過ごせることを最優先に考え、学習環境の整備に当たっては、「学校施設の整備（P67）」に引き続き取り組めます。</p>
40	<p>1人1台タブレット端末の整備、全普通教室への電子黒板の整備など、教育のデジタル化推進に関する日立市の対応は大きく評価できる。さらに、特別教室への電子黒板の整備が進められると、より充実した教育が実現できると考える。</p>	<p>児童生徒がより分かりやすく、参加意識が高まる授業づくりを行えるように、「情報教育環境の整備（P65）」により、特別教室等への電子黒板の整備について、検討を進めてまいります。</p>

No.	意見の概要	回 答
41	<p>令和 10 年頃までに学校の統廃合等の再編が行われるが、それらを考慮した施策も必要ではないかと思えます。</p>	<p>「学校再編の推進（P66）」により学校再編を進めていくとともに、「学校施設の整備（P67）」により、学校施設の長寿命化改修などを計画的に進めてまいります。</p> <p>日立市立学校適正配置基本方針（平成 30 年 3 月策定）では、通学時の安全確保や子どもたちの不安解消など、学校の再編に当たって配慮が必要と思われる事項について挙げています。</p> <p>学校再編は、市民生活の様々な面に影響が及ぶことから、市の関係課所と連絡調整を図り、地域の皆様の意見を聴きながら、学校再編を考慮した施策について、研究・検討してまいります。</p>
42	<p>コミュニティスクールや地域学校協働活動など、地域と学校の連携を推進する一方で、学校再編（統廃合）が進められ、地域から学校がなくなってしまうところもある。学区が広くなれば、それだけ学校と地域の距離が今までよりも遠くなってしまうので、2つの施策にやや矛盾があるのではないか。</p>	<p>学校再編の推進による学校の統廃合が進み、学区が広がるため、「学校運営協議会制度（コミュニティスクール）の推進（P69）」と「地域学校協働活動の推進（P69）」により、学校と保護者と地域のさらなる信頼関係の構築に努めます。</p>
43	<p>P72 のランドセルの贈呈は、日立市として誇れる取組であるため、長く継続できるように願っている。</p>	<p>「ランドセル及びスクールカバン贈呈（P72）」に引き続き取り組み、まち全体で子どもたちの入学をお祝いするとともに、保護者負担の軽減を図ってまいります。</p>

No.	意見の概要	回 答
44	<p>給食の無償化について、財源はこの先ずっと大丈夫なのか。</p> <p>給食の質が落ちないように、しっかりと管理してほしい。子どもが中学生のころ、日立市近隣市町村出身の友達が、口をそろえて「日立市の給食はおいしくない」と話していて、とても悲しいし、くやしいと話していたことを思い出した。子どもたちにはおいしい給食を食べてもらいたい。</p>	<p>保護者の負担軽減を図り、次代を担う子どもたちの健全な成長を支えるため、「学校給食の充実（学校給食の無償化）（P72）」により、引き続き給食を無償で提供できるよう、国・県の動向等を注視し、財源の確保に努めながら、取り組んでまいります。</p> <p>また、本市の給食はおいしいと子どもたちに思ってもらえるよう、「学校給食の充実（学校給食の充実）（P41）」により、栄養バランスを考慮した特色のある献立や魅力のある給食づくりに努めてまいります。</p>
45	<p>「地域子ども食堂の運営支援（P76）」について、これは、教育ではなく福祉の分野が担うべき事業だと考える。</p>	<p>「地域子ども食堂の運営支援（P76）」については、福祉分野の福祉総務課が担当する取組ですが、放課後の子どもの居場所の確保や学校外での子どもの生活を支援するための教育と福祉の連携という考えから、本計画に掲載しました。</p>
46	<p>P76「地域子ども食堂の運営支援」について、子ども食堂は、生活困窮家庭の子どもたちが利用する食堂として発足したと思うが、貧困家庭がどれくらいあるのか把握しているのか。</p> <p>また、それによってどれくらいの子ども食堂が必要なのか。子ども食堂運営者に市から貧困者のデータを提供できるとデータに基づいて弁当を配ることができるとメリットがあると思う。</p>	<p>地域子ども食堂は、地域住民が自ら作った温かい食事を提供することで、子どもの居場所づくりと地域による子どもの見守り体制を構築することを目的としており、生活困窮世帯の子どもに加え、地域の大人や高齢者まで幅広い世代の利用も可能としています。</p> <p>なお、生活困窮世帯の子どもの把握については、運営団体等との協議を踏まえ検討し、支援体制の充実を図ってまいります。</p>

No.	意見の概要	回 答
47	<p>P76「放課後児童対策の推進」について、共働きの家庭が増え、児童クラブが過密になり、子どもたちがのびのびと過ごすことが難しくなっているように思う。支援者が少なく、安全面に気を遣うだけで精一杯になっているようなので、私設の児童クラブも含め、安心して過ごせる場所を増やすことと、放課後の時間をもっと有効に使えるようにした方がよいと思う。</p>	<p>子どもたちが安心して過ごせる放課後の居場所づくりのため、「放課後児童対策の推進（P76）」により、放課後児童クラブの環境整備を図ってまいります。</p> <p>また、放課後児童支援員が子どもたちと十分に向き合える時間が作れるよう努めてまいります。</p>
48	<p>P78「大学・専門学校等への進学支援」について、子どもが大学生になり、小中高より一番お金がかかることを知った。今の時代、大学や専門学校への進学を希望する子どもがほとんどだと思うので、授業料の補助金があると助かる。</p>	<p>授業料の補助については、日本学生支援機構の高等教育就学支援新制度により、対象となる住民税非課税世帯等であれば、授業料の減免と給付型の奨学金を受けることができます。</p> <p>また、本市では、「大学・専門学校等への進学支援（P78）」により、日本学生支援機構一種奨学金、茨城県奨学資金、日立市奨学金のいずれかを利用して大学・専門学校等を卒業した後に日立市に居住する等の条件を満たせば、奨学金の返還金を補助する事業を行っています。</p>
49	<p>日立市の公害の歴史を小学生の頃に学んだことは、環境に対する意識向上につながった。当時の公害対策（大煙突）のほか、最新の公害対策も教えてはどうか。</p>	<p>頂いた御意見を踏まえながら、日立市の公害対策の歴史だけでなく、最新の公害対策を教えることについても検討し、児童生徒の環境意識の向上を図ります。</p>
50	<p>各項目とも、児童が大人になったときの姿をイメージして、そこに必要な力は何か明示してあったのでとても分かりやすかった。</p>	<p>本計画に記載している施策を推進し、子どもたちが「未来を拓く人材」となるための素地を育てまいります。</p>

No.	意見の概要	回 答
51	<p>子どもがスポーツをするきっかけづくりになるイベントの開催があるとよいと思う。ひたちナビアプリなどに小学校が配布しているイベントのお知らせなども掲載していただくとよいのではないか。</p>	<p>市スポーツ協会が主催の市民参加型のスポーツイベントである「ぷら・スポフェスタ」などを引き続き実施してまいります。</p> <p>また、スポーツイベントの広報については、ひたちナビアプリの活用も含めて、幅広い情報発信を検討していきます。</p>
52	<p>スクールカウンセラーの予約をインターネットで予約ができると、学校が保護者からの相談の有無がパソコン等からもすぐ確認できるので、教員の負担も減ると思う。また、相談日や場所は、その都度保護者とスクールカウンセラーに確認して決められるとよいと思う。</p>	<p>スクールカウンセラーと学校、相談者との調整が必要であるため、これまでどおり学校を通した方法での予約をお願いしたいと考えます。</p>
53	<p>目標指標として、現状値と目標値が示されているが、100%にならないのは、施策が十分ではないのではないか。</p>	<p>目標指標については、上位計画である「日立市総合計画」の目標値や、現状値、コロナ禍前の数値などを踏まえて設定しました。</p>
54	<p>小中学校ともあいさつ運動を行っているが、特に中学生の声が小さい。相手に聞こえる大きさの言えるよう啓蒙してほしい。小学生の時は、もっと大きな声で元気な声で、挨拶してくれていたように思う。</p>	<p>人と人とのつながりを深め、信頼関係を築くことができるなどのあいさつの目的や効果を啓発することで、子どもたちが元気にあいさつをするという社会人として最も基本的なスキルの一つを身に付けられるよう努めます。</p>
55	<p>計画の素案に記載されている内容はもっともなことばかりであり、ぜひ実行していただきたい。</p>	<p>頂いた御意見を踏まえながら、教育施策を推進してまいります。</p>
56	<p>これまでの計画の成果をマトリックスにすると計画の改善点が見えるのではないか。</p>	<p>計画の評価については、「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」を活用しながら、より効果的な施策を推進していきます。</p> <p>また、評価手法にマトリックスを用いることについては、今後、研究・検討を進めてまいります。</p>

No.	意見の概要	回 答
57	<p>海外からの訪問者が増加傾向にあり、又、高齢で地図を見ながら観光する訪問者の多さを感じるため、無償で案内ガイドを行うボランティアが増えるように、国際交流ボランティアを養成する講座を実施してほしい。</p>	<p>本市では、国際交流ボランティアを養成する講座として、外国人に日本語を教える「日本語ボランティア養成講座」や「通訳ボランティア養成講座」を実施しております。頂きました御意見を踏まえまして、今後も引き続き、これらの講座の充実を図るなど、国際交流ボランティアの育成に努めてまいります。</p>
58	<p>日立の海や山の自然環境をいかした取組は、とてもいいと思いました。それを、子どもたちが体験、経験して、自分の興味のあるものが見つかり、将来につながって、日立を支える大人になればうれしいです。</p>	<p>本市では、子どもたちの体験機会の充実を図るため、週末や夏休み等を活用し、水産業やものづくり等の職業を体験する職業探検少年団や、地学教室、英語体験活動等を実施しております。</p> <p>頂いた御意見を踏まえながら、今後も、子どもたちの様々な体験機会の充実を図り、生涯学習の推進に努めてまいります。</p>
59	<p>P2の「1 策定の趣旨」に記載されている「日立市教育振興基本計画」（計画期間：2019年度～2023年度）の成果、課題の要点が示されていないと、提案の計画が妥当なのか評価できないのではないかと。</p>	<p>これまでの取組については、P9の「4 本市における取組の状況」に記載されております。また、その成果、課題については、年度ごとに評価・分析を行っており、その内容を踏まえて、本計画の策定を行っております。</p>
60	<p>生涯学習を取り巻く現状とこれまでの取組状況（P5～P12）について、これまでの計画と成果についての分析はこの程度で良かったのでしょうか。マトリックスにすると計画の改善点が見えるのではないかと。</p>	<p>計画の推進状況は、年度ごとに、目標指標の達成状況及び「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」により評価・分析を行っており、本計画におけるこれまでの取組状況については、それらを総括する内容としております。</p> <p>また、評価方法にマトリックスを用いることについては、今後、研究・検討を進めてまいります。</p>

No.	意見の概要	回 答
61	<p>P8（5）の「地域コミュニティの活動と生涯学習の連携」について、地域の活性化には、ボランティアの協力が欠かせないため、ボランティアを有償化して、責任とやる気を与え、活性化を図ることが必要と考えます。</p>	<p>ボランティア活動の有償化については、日立市コミュニティ推進協議会と共に、有償化することのメリット・デメリットや、有償化する場合の仕組みを含めた検討をしています。</p> <p>現在は、ボランティア活動への謝礼をポイントで付与する仕組みの活用を検討しているところであり、今後も、活動者のやる気につながる取組を進めてまいります。</p>
62	<p>計画の基本的な考え方（P13～P18）については、実行すべきことを絞って集中的な対応へ変更すべきではないか。</p>	<p>本計画は、国が示す方向性や社会情勢等を踏まえ、市民一人一人に合った生涯学習活動を進めるため、「ライフステージ」、「誰一人取り残さない（SDGsの方向性との合致）」、「デジタル化」、「リカレント教育」の4つの視点を持って策定してまいります。</p>
63	<p>「視点1 ライフステージ（P15）」について、「ライフステージの捉え方」は、具体的にどのようなカテゴリーで分類しているのか明確にしてほしい。また、「ライフステージの推進項目」は、それぞれのステージでの項目を順に追って明記したほうが分かりやすいと思うので整理してはいかがか。</p>	<p>人生100年時代を豊かに生きるため、本市の生涯学習の推進においては、「誰もが、いつでも、どこでも、学びたいことが学べるよう、学習機会の充実を図る」こととしております。ライフステージのカテゴリーについては、乳幼児期、青少年期、成人期、高齢期の大まかな区分とし、年齢にかかわらず、市民が主体的に学ぶ意欲を支援してまいります。</p>
64	<p>視点2（P16）において、「誰一人取り残さない（SDGsとの方向性の合致）」としているが、高齢者に対する提案は、「認知症サポーターの養成」しかないのか。もっと幅広い提案を出すべきと考えます。</p>	<p>構成編集の調整により、当該頁の記載内容を修正します。</p>
65	<p>「視点3 デジタル化（P17）」については、学習の成果を図るために資格、試験を受ける場合もあると思うので、CBTセンターの誘致を進めてほしい。</p> <p>※CBTとは、「Computer Based Testing」の略で、試験会場へ出向き、試験会場のコンピューターを使って受験すること。</p>	<p>市民が生涯を通じて、いきいきと学び続け、自分らしく活躍できるよう、学習の成果を図る機会など、生涯学習環境の整備に努めます。</p>

No.	意見の概要	回 答
66	<p>P20の「施策の体系の取組」については、合格ラインを明示したほうが進捗の判断がしやすくなるのではないか。</p>	<p>施策の柱ごとに設けた目標指標により、計画の進捗を図ることといたします。</p>
67	<p>「推進テーマ（P21）」の「笑涯」というキーワードについて、日立市生涯学習振興計画において、「生涯を通じて学び続ける」ことを意味するのであれば、本来の「生涯」とすべきではないか。</p>	<p>「生涯を通じ、笑顔でいきいきと学び続ける」ことを意図して「笑涯」としましたが、「笑涯（しょうがい）」が造語であり、一般的に馴染みのない言葉であることから、検討いたします。</p>
68	<p>P38の「生活困窮世帯の子どもに対する学習支援」について、市内に何か所程、設置の予定があるのでしょうか。 また、通うための交通費等はどのように考えているのか。</p>	<p>生活困窮世帯に対する学習支援事業につきましては、小学4年生から中学3年生までを対象に平成28年度に市内4か所（十王・日立・多賀・南部地区）を開設し、令和2年度には日高地区を開設したことにより、現在市内5か所で週1回実施しています。さらに、中学校3年生を対象に7月から翌年2月まで中学生講座を開設しています。 また、送迎ができず公共交通機関を利用しないと通塾できない児童生徒に対しましては、交通費を全額助成しており、参加しやすい環境づくりに努めてまいります。</p>
69	<p>P39の「高齢者のデジタル端末活用支援」について、参加者の交通手段等は考慮されていると思いますが、近年、高齢者の自動車事故が増えていると思うので、乗り合いタクシー等の利用は検討されているのか。</p>	<p>高齢者の外出を促し、閉じこもりの防止と介護予防事業等への参加を促進するため、「高齢者おでかけ支援事業」として、バスカードの割引販売やタクシー乗車費の助成を行っております。 今後も、高齢者が参加しやすいよう交流センターや元気カフェなどの身近な場所や、交通の便のよいヒタチエなどで講座を開催し、多くの高齢者にデジタル機器を活用していただけるよう努めてまいります。</p>
70	<p>P67の「ラジオ体操の普及」について、ラジオ体操の普及から健康増進につなげていく方法として、「生活の中に身近に工夫して取り入れている事例募集と紹介」を行ってはいかがか。 また、コンクール的なPRも、興味深く、関心を持って取り組んでいただける機会になるのではないかと思う。</p>	<p>ラジオ体操の普及として、「日立市長杯ラジオ体操コンクールの実施」や「ラジオ体操の取組に対する啓発品の配布」などに取り組んでおります。 今後は、ラジオ体操の更なる普及として、正しいラジオ体操を身に付ける機会の充実や、日常的に取り組むきっかけづくりに努め、市民の健康増進を図ってまいります。</p>

No.	意見の概要	回 答
71	<p>計画の素案に書いてあることは、もっともなことばかりで、ぜひ実行していただきたいと思います。計画が実現され、素晴らしい日立市になることを願っています。</p>	<p>頂いた御意見を踏まえながら、生涯学習に関する施策を推進してまいります。</p>
72	<p>現在の計画は、ある程度健常者に対しての行動、計画が多いように感じます。長野市では60歳以上を対象としたダンスイベントがありました。「心身の機能が衰え介護が必要になる状態の予防」の紹介で老人福祉センターのディスコ講座を受講しているというニュースもありました。日立市でもこのような取組があってもよいと思う。</p>	<p>取組に当たっては、年齢や性別、障害の有無に関わらず誰もがスポーツに取り組むことができるように、ユニバーサルスポーツ等の推進の取組を推進します。</p>
73	<p>最近、高齢者ふれあいサロン（高齢福祉課事業）の会場にも足が動かないという方、又はいきいきサロンに参加したくないと言う人もいます。出前でダンス等の実施も面白いかもしれません。マイクロバスや移動ステージ、空き家を利用したダンス披露（の機会）もあるとよいかもしれません。ダンス（スポーツに限らず）ミニ文化祭等も実施するものよいかもしれません。</p>	<p>P27の「No2 関係団体との連携によるユニバーサルスポーツ等の推進」の中で高齢者関係の事業を通じたスポーツ・レクリエーションの取組を推進します。</p>
74	<p>P27のNo1「プレゴールデンエイジの育成」について、モデル事業の実施は大変素晴らしいと思いますが、まず人（子供）がいなければ始まらないと思います。日立市は人口が毎年減少しており、出生者も減少し、高齢化が進んでおります。人口増加（維持）を図ることが大事と思われる。</p>	<p>プレゴールデンエイジの育成を始めとした子どもたちのスポーツ環境を整備することは、本市の子育て環境向上にもつながります。本市が目指す「教育は日立市で」「子育ては日立市で」の実現に向け取り組むことによって人口減少対策にもつながるものと考えます。</p>
75	<p>子どもがスポーツをするきっかけづくりになるイベントの開催があるとよいと思う。ひたちナビアプリなどに小学校が配布しているイベントのお知らせなども掲載していただくとよいのではないかな。</p>	<p>子ども等、参加型のスポーツ・レクリエーション事業（ぷら・スポフェスタ等）を実施するとともに、P27の「No1 プレゴールデンエイジの育成」、P28の「No3 地域スポーツクラブと連携した身近なスポーツの推進」等を推進します。また、P49の「No35 ホームページ・広報誌等を通じたスポーツ情報の発信」の中で、ひたちナビの活用を含め取り組みます。</p>

No.	意見の概要	回 答
76	<p>P35の「No17 ラジオ体操の普及」について、日立市の上空は、定期的に飛行機が通過します。毎朝のラジオ体操を上空から撮ってもらうと市民が一致して、健康づくりに邁進している姿があって、面白いかもしれません。(ギネスになるかもしれません。)</p>	<p>ラジオ体操のまち・ひたちPRするため、日立市長杯ラジオ体操コンクールを始め様々な取組を推進します。</p>
77	<p>P18の計画策定の「視点4 ひたちらしき」の「企業スポーツとの連携、地域人材の確保」は、指導によって関わるが増えれば、観る人も増える。教える側の企業チームのプラスにもなる。</p>	<p>頂いた御意見の趣旨を踏まえ、企業スポーツが盛んな日立市の特徴を活かすため、P38の「No20 企業スポーツとの連携、地域人材の確保」の中で地元企業運動部と市民の交流機会の創出に取り組みます。</p>
78	<p>「スポーツ合宿の誘致促進」について大学の体育会系の合宿誘致等もより進めてほしい。大学生の第二のふるさととして、心に残りやすいと聞いたことがある。</p>	<p>スポーツを通じて日立の魅力に触れ、スポーツ以外でも日立に興味を持って頂く機会とすることも目的の一つであることから、頂いた御意見の趣旨を踏まえ、P45の「No29スポーツツーリズムの推進」の取組の中で大学等の運動部・サークルの定期的な合宿誘致について検討していきます。</p>
79	<p>スポーツを楽しむ環境づくりの中で、子供たちが地域の広場や公園などで遊ぶ場合、あまりにも制限が多く自由にのびのびとスポーツを楽しむことができない。ケガなどのリスクを恐れすぎて、規制が多すぎるのではないか。</p>	<p>様々なスポーツを行う上で、安全確保のため、一定の制限は必要であると考えています。P51の「No38 グラウンド芝生化の推進」やP54の「No43 若者が集い交流を図ることができる施設整備の検討」により、ニーズに合わせて安全で安心な施設整備を推進します。</p>
80	<p>P42の「No27 部活動の段階的な地域移行」について、本市の具体的な移行内容を明確にし、地域における人材バンクの設置を市報やポスターで伝えることが必要ではないか。</p>	<p>「No27 部活動の段階的な地域移行」の内容記載のとおり、日立市を3ブロック(北部・中部・南部)に分け、1ブロックごとに1種目当たり1団体を目安に部活動の地域移行を推進していくこととしています。現状は、一部地域で地域のスポーツクラブに休日の部活動を担っていただく実証的事業を実施しています。</p> <p>また、休日の部活動の地域移行のスケジュールや、「茨城県地域クラブ活動人材バンク」の情報を本市ホームページに掲載することを検討します。</p>

No.	意見の概要	回 答
81	<p>P50の「IV スポーツ施設の多様な整備」について、ウォーキングコースの整備をお願いします。森、海、街、平地のコース。現在あるものを整備し、ファミリーから年配の方まで安全に使えるようにし、広めてほしい。特に池の川さくらアリーナ～テニスコート上の駐車場～池の川弁天公園など。夏は木陰のコースがあるとよいです。</p>	<p>ウォーキングコースの整備については、P55の「No45 超高齢社会に対応したやさしく使いやすい施設の整備」として推進します。</p> <p>また、スポーツ施設以外でも身近な場所でウォーキングに取り組むため、「いばらきヘルスロード」についても推進していきます。</p>
82	<p>P56の「No46 市民運動公園野球場の再整備」について、老朽化は再整備すべきですが、何かを大きく変えず、早く使えるようにしてほしい。市内で高校野球の応援ができないと思うと悲しい。</p>	<p>「No46 市民運動公園野球場の再整備」の目的の中で、老朽化した野球場をユニバーサルデザインに対応した施設としてすべての人が利用しやすく整備することを明確にしました。なお、現行の野球場のスタンドは建設から50年が経過し老朽化が著しいこと、更衣室や女子選手用のトイレ、観覧席等のバリアフリー設備等の整備の必要性から大規模な改修が必要になっています。</p>
83	<p>「No46 市民運動公園野球場の再整備」について、プロ野球もできるようにという改修は、その改修期間、市民の大会が開催できなくなる。プロが来るよりも大きな損失だと考える。高校生、中学生、その年代でしかできないことを奪う。プロは来なくてもよい。住民がプレーできることを最優先に改修計画で行ってほしい。</p>	
84	<p>「スポーツを通じた地域の活性化」を施策の柱Ⅲとしてあげているが（P43）、「スポーツを通じたにぎわいづくり」と「スポーツに関する情報提供の充実」で十分なのか。多くの地域に住んでいる高齢者を対象とした具体策はないのか。</p>	<p>高齢者を対象とした取組は、各施策に位置付けており、様々な取組を展開する計画となっています。また、取組の内容が伝わるような様々な視点から情報を発信していくことを検討していきます。</p>
85	<p>池の川さくらアリーナでのバスケットボールの試合の盛り上がりを感じます。野球場の再整備でプロ野球等の誘致ができればまちおこしになると思います。周辺道路の渋滞問題、観客のマナーの問題等の対策も同時に必要かと思います。</p>	<p>プロスポーツ等を活用しながら、スポーツを通じたにぎわいづくりを推進するとともに、「する」「みる」「ささえる」の様々な視点からのスポーツ振興を図るための取組を推進します。</p> <p>また、周辺道路の渋滞問題については、P56の「No47 市民運動公園施設の利用環境の向上」の中で検討していきます。</p>

No.	意見の概要	回 答
86	池の川さくらアリーナのトレーニング室の拡充と空気清浄機の設置をしてほしい。	<p>トレーニング室の拡充については、民間のトレーニングジムの整備状況等も踏まえながら、P56の「No47 運動公園施設の利用環境の向上」の中で検討していきます。</p> <p>なお、空気清浄機の設置については、P53の「No41 空調換気設備の設置等利用環境の向上」の中で、トレーニング室に限らずその必要性を検討していきます。</p>
87	全体的にプロやトップを意識しすぎていると感じます。誰もがどんな人も体を動かすことが可能な環境づくりが重要です。	プロやトップレベルスポーツの誘致のみではなく、プロやトップレベルのスポーツチームと連携したイベントや指導者の育成、情報の発信等により、市民がスポーツに興味をもち、誰もがスポーツに親しむことのできる環境の整備を推進します。
88	計画の素案に記載されている内容はもっともなことばかりであり、ぜひ実行していただきたい。	頂いた御意見を踏まえながら、スポーツ振興施策を推進します。
89	本計画の意見聴取について、閲覧する環境が悪く、市民から意見を聞く姿勢がと思えなかった。	今後の計画策定においての参考とさせていただきます。
90	これまでの計画の成果をマトリックスにすると計画の改善点が見えるのではないか。	<p>計画の評価については、「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」を活用しながら、より効果的な施策を推進していきます。</p> <p>また、評価手法にマトリックスを用いることについては、今後研究・検討を進めてまいります。</p>
91	4つの視点について、これまでの事業を強化するものなのか、新たな対応なのかを明確にすれば、計画のポイントが分かりやすくなるのではないか。	構成編集の調整により、当該頁の記載内容を修正します。

No.	意見の概要	回 答
92	用語の解説が必要ではないか。	頂いた御意見の趣旨を踏まえ、用語の解説を追加します。
93	P22の「推進体系図」でこれからの取組の全体像が見えるが、どうなればゴールになるのかが分かった方がよいのではないか。	施策の体系の主な取組ごとに、今後の施策の進め方を示すための「方向性」を示しており、今後5年間は、この方向性を踏まえて各取組を推進してまいります。

以 上